

第74回（令和6年度）

入賞作文集

犯罪や非行を防止し
立ち直りを支える地域のチカラ



BBS 会員の
イルカ兄さん

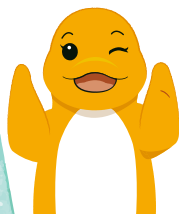


協力雇用主の
アシカ親方



更生ペンギンの
ホゴちゃん
(びーなっつver.)

更生ペンギンの
サラちゃん
(びーなっつver.)



BBS 会員の
イルカ姉さん



保護司の
クジラ先生



更生保護女性会員の
オコジョさん



“社会を明るくする運動” 千葉県推進委員会



チーバくん

千葉県マスコットキャラクター
千葉県許諾 第A441-20号

はしがり

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラは、すべての国民が犯罪や非行の防止及び罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。本運動は、毎年七月を強調月間として全国で行われており、本年度で七十四回目を迎えました。

「社会を明るくする運動」作文コンテストは、本運動の一環として、次代を担う全国の小中学生に、日頃の家庭生活や学校生活の中で、犯罪や非行などに関して考えたことや体験したことを作文にしてみたい、この運動への理解を深めてもらうことを目的として始められたものであり、千葉県推進委員会でも平成七年度（第四十五回）「社会を明るくする運動」から参加し、今回で三十回目となります。

今回の作文コンテストでは、千葉県内から小学生の部六、九〇九点、中学生の部八、八三七点、合計一五、七四六点の応募があり、各地区推進委員会の選考を経て、千葉県推進委員会に推薦された作品を審査委員会で審査いたしました。その結果、小学生の部一〇点、中学生の部一〇点、合計二〇点の入賞作品が選ばれました。また、今年度も、特別賞として「千葉県教育委員会教育長賞」、奨励賞として「千葉県小学校長会長賞」及び「千葉県中学校長会長賞」を設けて、力作を送っていただいたことにお応えしております。

本文文集は、千葉県作文コンテストの入賞作品を収録したものです。一人でも多くの方に読んでいただくことで、青少年の健全育成・非行防止に寄与するとともに、「社会を明るくする運動」に対する一層の御理解・御協力をいただければ幸いです。

終わりに、この作文コンテストの実施に当たり、御後援をいただきました千葉県教育委員会、千葉県小学校長会、千葉県中学校長会、千葉市教育委員会、千葉市小学校長会、千葉市中学校長会、公益財団法人千葉県私学教育振興財団、千葉県PTA連絡協議会、千葉県教育研究会国語研究部会、株式会社千葉日報社、千葉テレビ放送株式会社、千葉県保護司会連合会、千葉県更生保護助成協会、千葉県更生保護女性連盟、千葉県BBS連盟、また、実施にあたり多大な御尽力をいただきました県内の教育委員会や学校関係者、地区推進委員会の皆様に心から感謝申し上げます。

令和六年十二月

「社会を明るくする運動」千葉県推進委員会

目次

はしがき	1
審査講評	4
入賞作品	

小学生の部

千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）	自由な生き方を	船橋市立飯山満小学校	六年	坂本夏梨	6
千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）	未来のために、私たちができること	白子町立関小学校	六年	石渡楓佳	8
千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）	社会のためにほくにごできること	東金市立東小学校	六年	村田一樹	10
千葉県教育委員会教育長賞（特別賞）	メダカが教える犯罪、非行のない社会	千葉市立登戸小学校	五年	松本圭賜郎	12
千葉県保護司会連合会長賞	「ありがとう」「ごめんね」の一言で社会の色が変わる	大多喜町立西小学校	六年	渡辺ゆめ	14
千葉県更生保護助成協会理事長賞	ありがとうで明るい社会に	市原市立白金小学校	五年	友邊結人	16
千葉県更生保護女性連盟会長賞	私にできる事	茂原市立豊岡小学校	六年	川崎葉月	18
千葉県BBS連盟会長賞	広げようあいさつプラス1 [♪]	鴨川市立鴨川小学校	五年	山田健生	20
千葉保護観察所長賞	車いす利用者になって感じたこと	木更津市立八幡台小学校	六年	鎌田ひかる	22
千葉県小学校長会長賞（奨励賞）	できることから一つずつ	千葉市立土気南小学校	六年	宇井明	24

中学生の部

千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞） 向き合い、知ることの大切さ	千葉市立大椎中学校	二年	渡辺結衣	28
千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）・全日本中学校長会会長賞 傍聴から考えた出所者の更生について	浦安市立浦安中学校	一年	塚本愛子	30
千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞） 恥ずかしい私の母	睦沢町立睦沢中学校	二年	杵森大冲	32
千葉県教育委員会教育長賞（特別賞） つながりの輪が社会を照らす	市原市立国分寺台中学校	一年	宮原愛和	34
千葉県保護司会連合会長賞 社会を明るくする家具	香取市立佐原第五中学校	一年	中井琉偉	36
千葉県更生保護助成協会理事長賞 挨拶でつながる社会	木更津市立岩根西中学校	二年	能城洸太郎	38
千葉県更生保護女性連盟会長賞 みんな一人じゃない	南房総市立富浦中学校	一年	岩崎小乃芽	40
千葉県BBS連盟会長賞 言葉を大切に	柏市立柏第三中学校	三年	松島蘭奈	42
千葉県保護観察所長賞 地域で築く安心感	九十九里町立九十九里中学校	一年	飯田ののほ	44
千葉県中学校長会会長賞（奨励賞） 音楽の力	八街市立八街南中学校	二年	二夕見悠斗	46
入選・佳作				48

審査講評

審査委員長 千葉県教育研究会国語教育部会長

千葉市立草野中学校長

柴崎

淳

第七十四回目の作文コンテストには、小学校は二八五校、六九〇九点、中学校は二六校、八八三七点、合計一五、七四六点の応募がありました。応募していただきました児童・生徒の皆さん、ご指導いただきました先生方に深く感謝申し上げます。

日常の家庭生活や学校生活の中で見聞きしたことや体験したことを基に、「犯罪や非行のない明るい社会づくり」や「犯罪や非行をした人の立ち直り」に関して、感じたり考えたりしたことを、自分なりの視点でしっかりと述べられていることにとても関心しました。

昨年度、新型コロナウイルス感染症が五類に移行したことにより、社会がコロナ禍以前の活気を取り戻し、人と人とのコミュニケーションや社会活動なども活発になってきました。その一方で、SNSなどを通じて若者が安易な気持ちで凶悪な犯罪に手を染めてしまう事件なども相次いで起こっています。

そうした社会での出来事などに目を背けずに、その背景や原因を考え、それを解決するために自分自身にでき

ること、防犯対策や犯罪防止、よりよい地域や社会について、私たち一人一人がしっかりと考えていくことがとても大切です。

今回の入賞作品は、日常生活の中で挨拶や言葉の大切さに気付いたり、地域や家族などの身近な人の言動や出来事から疑問を持ったりしたことをきっかけに書かれている作品が数多くありました。調べたりしたことや見聞きしたことでも、自分なりの考えをもつて書くことはできますが、やはり、自分自身の体験に勝るものはありません。作品の中には、裁判所での傍聴など、貴重な体験を基に書かれているものもあり、体験から生み出された言葉や表現からは、書き手の強い思いが感じられ、読み手を引き付け、心に響くものがありました。

地域社会において様々な交流や体験を通して、明るい社会について考えて書かれた子供たちの作品を、たくさんの皆様にご覧いただきたいと思います。そして、皆さんの住むこの地域・社会がより明るいものになるように願っております。

小学生の部作品





千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）

自由な生き方を

船橋市立飯山満小学校

六年

坂本夏梨

私は、外で遊ぶことが好きです。よく、友達と一緒に公園に行って遊びます。そんなある日のことでした。いつも通り、友達と遊ぶ約束をしていました。その日は夏休み前の最後の日で、最後くらいは大人人数で遊びたいという話になっていたので、場所も広めの所が良いと思うと話していました。すると、一人の友達が、

「行ったことはないけれど、私の家の近くに結構広い公園があるよ。」

と教えてくれました。そこで、私達は、他にもいろいろな人をさそって、放課後、みんなでその公園に行くことにしました。そして、いざ、遊びに行く時間になり、事前に決めておいた集合場所から公園に、みんなで集団になり行っていました。十数分移動して、ついに、公園に着きました。私達はとても楽しみにしていました。早速、

ある一人の友達が、自分のバッグからボールを取り出して、

「ドッジボールやろうぜ。」

と言ってきました。その案にみんなが賛成したので、まずはドッジボールで遊ぶことになりました。

何試合か行ったときのことでした。突然、近所の人から出てきて、私達に、

「なにやってるんだ。ここでボール遊びをしちゃだめだよ。ちゃんとあの看板に書いてあるじゃないか。」

と言いました。そこで、みんなで話し合って、仕方ないと別の遊びをすることにしました。ただ、その前に、別の友達が

「さっきの人が言ってた、あの看板を確認しておかない？」

と言ったので、一旦確認してから遊ぶことにしました。すると、看板には驚きのことが書いてありました。確かに、他の公園にもありそうなルールも何個ありますが、ほとんどのルールがとても厳しいものでした。例えば、「飲食禁止」、「二時間以上の長居禁止」、「自分のシートをしくなどの場所取り禁止」、「公園の外までよく聞こえるほどの大きな音、または声を出すこと禁止」、「貴重品の持ち込み禁止」などでした。毎日とても混んでいる有名なパワースポットならまだしも、どこにでもありそうなのかな公園でこんな厳しいルールがあつていいものか、と私は言い合いました。なので、夏休み前最後だし、せっかく来たので少しくらいルールを破って楽しもう、という結論になりました。守れそうなルールはいくつか守ったものの、破ったルールも同じくらいありました。友達があつてきたお菓子を一緒に食べて、持ってきたしまったお金で飲み物も買い、公園で四時間以上もすごしていました。こりたのか、近所の人は何も注意して来なくて、私はとても楽しい時間をすごしました。しかし、みんなもうすうすう感じていたのか、少し罪悪感もあつて、顔が少しくもっているような気もしました。私

は、「厳しいルールと、ルールを破った私達、どっちも悪い気がするけれど、どっちも自分達にとって何となく大切な気がするな。」と思いました。

犯罪や非行をした人達も、おそらく大体の犯行の理由が周りの厳しい環境やルールに不満がたまつて、「自由や快適」を求めているのだと思います。それは、私達の公園での話と同じです。確かに、ルールを破った私達、すなわち犯罪や非行をした人達も、理由は何であれ悪い行いをしたのだから、悪いことに変わりはありません。しかし、そもそもその理由となつた環境やルールをつくる側と、その環境にいる・ルールを守る側にも同じくらいの「自由」が分け与えられていれば、犯罪や非行は起こらなかったでしょう。どんな人であろうと、他人の自由が欠けない限り、あふれるほどの平等な「自由」を与えられる社会が大切だと、私は思います。



千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）

未来のために、
私たちができること

白子町立関小学校 六年 石渡楓佳

「犯罪」について、みなさんはどのように考えるだろうか。私は、「犯罪」は絶対にあつてはならないものだと考える。だが、現実には犯罪のニュースが日々報道されており、心が痛くなり、ニュースを目にするのが怖い。

ある日、一歳になる我が子を親が殺してしまうという衝撃的なニュースを見た。私の母は、私のことを一番に考えてくれる。私がいけないことをしたら、注意をしてくれるし、どんな時でも話を聞いてくれる。私は、そんな母が大好きだ。一歳の子も、私と同じ気持ちだったはずだ。しかし、大好きな親に「存在が邪魔だから」「育てるのが大変だから」などという理由で殺されてしまったのだ。私は、怒りや悲しみだけでなく、一言で表すことができない、複雑な気持ちになった。それと同時に、決してどんな理由であっても、人を傷つけることはあつて

はならないと思った。

なぜ、このような事件が起こるのだろうか。私は、背景の一つに、ゲームとの向き合い方の変化があるのではないかと考えた。ゲームには体を動かすことができるものや、新しいことを知ることができるもの、友達と協力して楽しく行ふものなど、たくさんの種類がある。しかし、人を傷つけることをテーマにしたものも多く存在する。このようなゲームでは、人を傷つけても罰せられることはない。傷つけられた人も、現実では痛みを感じることはない。ゲームの中で、命を落としてしまってもリセットボタン一つで簡単に生き返ることができる。現実の世界では、あり得ないことが、ゲームの中では当たり前になっていく。私は、このようにゲームの世界と現実の世界を同じように考えてしまう人が増えているの

ではないかと思った。ゲームの中では感じることでできない痛みや苦しみ、現実の世界では一生消えることのない体や心の傷となって残ることを、想像することができていないのではないかと……。

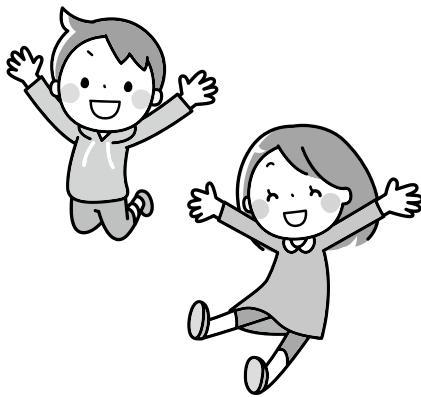
どのようにしたら、犯罪が減り笑顔があふれる明るい社会になるのだろうか。そのために、世間に求められていること、私ができることについて考えてみた。

まず、ニュースなどで犯罪の恐ろしさや絶対にしてはならないということを、大人だけでなく子どもにも分かるように伝える必要があると考えた。また、子育てで悩んでいる母親が自分の子どもを傷つけてしまったニュースのような場合は、その母親の心を救ってあげるようなサポートすることも解決策の一つではないだろうか。ただ、一番大切なことは犯罪を起こす前に、相手がどれだけ傷つくかを考えることだと思う。そのために、子どものうちから、毎日の生活の中で相手の気持ちを考える意識をもつことが重要だと考える。

最後に、私自身にできることについて考えたことを述べる。私は、困っている人がいたら手を差し伸べたい。また、間違ったことをしようとしている人を止めたい。

ダメなものはダメだと、はっきり伝えてあげることこそ真のやさしさだと思っている。周りの状況に左右されることなく、芯のある人間、頼りになる大人になりたい。

世の中から、犯罪がゼロになるのは難しいかもしれない。だが、犯罪をゼロに近づけることは、反対に笑顔が増えることにつながると私は思う。私は、笑顔があふれる明るい社会のために、自分にできることは何かを考え行動し、日々成長できるようにしたい。





千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）

社会のためにぼくができること

東金市立東小学校 六年 村田 一樹

社会を明るくする運動、そう聞いて一番に思いついた

のは、週に一回、委員会活動で行なっている朝のあいさつ運動です。朝の登校時間に、ほかの委員会メンバーや校長先生と一緒に校門の前に立ち、登校してくるみんなに「おはようございます。」とあいさつしています。あいさつを返してくれる人、そのまま通り過ぎる人、様々です。

今まで、「あいさつをしましょう」と言われて、あいさつをしてきました。マナーでやらなきゃとか考えておらず、どうしてあいさつするのかについては、考えていませんでした。どうしてあいさつが大切なのだろう。

言葉の意味を調べると、「心を開いて歩み寄る」、「挨拶は、心を開く」、「挨拶」：相手に近づく。つまり挨拶は、相手に心を開き、自分から相手に近づいていくための、

手段であることが分かりました。

大きく元気な声のあいさつは、聞いていて気持ちの良いものです。しかし、もっと良いあいさつをするためには、相手の気持ちを意識して、あいさつをしなければなりません。あいさつをされて相手が、あいさつを返したくなるには、目を見て、気持ちを込めて、相手に聞こえるように、あいさつをすることが大切だと思います。

挨拶の意味を考えると、人と人との関係を近づけるコミュニケーションであり、心の距離を縮める効果があると思います。

僕は夏休みに違う学校の人が集まるサマーキャンプに参加しました。そこでは、初めて会う仲間もいましたが、自己紹介とあいさつをすることで、スムーズに活動することができました。

そんな、魔法のような言葉であるあいさつは、防犯効果にもなるそうです。ぼくが、学校のあいさつ運動の話を家ですたときに、お父さんから聞いた話があります。お父さんによると、あいさつには、犯行をためらわせる効果があるそうです。

犯行を行おうとする不審者は、必ず事前に現場を下見するそうです。この下見の時に、犯行をあきらめる理由は、「近所の人に声をかけられたり、じっくり見られたりした」ことだそうです。

もう一つは、万引きをしようとする不審者です。犯人が、犯行をあきらめる理由としても、「あいさつされること」であることが分かりました。

このことから、あいさつは、犯罪を防ぐ意味でも、重要な役割を持っていることが分かります。犯罪をしようと考えている人は、心にモヤモヤをかかえていて、少しのイラつきから、どんどん悪い方向に、気持ちがかたむいてしまうのではないのでしょうか。きっかけは人それぞれでも、犯罪は特別な人たちが起こすものではないかと、ぼくは思います。

挨拶をすれば、犯罪をやめておこうという気持ちにな

り、その人もしなくてよかったという気持ちになれるでしょう。そうすれば、明るく元気な街になります。

あいさつにはたくさんの種類があり、多くの意味があります。そして、いろいろな場面で行うことができます。あいさつは年齢や経験などは関係なく、気持ちさえあれば誰でもできます。ただし、普段からしていないと抵抗があるし、いざしようとしても、なかなかできないと思います。

当たり前にあいさつができるように、朝のあいさつだけでなく、ありがと、さようならなどを使う場面でも、それぞれのあいさつの意味を考えて、積極的に使っていくと思います。

いつもの生活に、あいさつを取り入れるだけで、毎日が変わっていくと思います。誰もが安心して暮らすことができるように。あいさつを通じて、人とのつながりを大切にしていきたいと思います。



千葉県教育委員会教育長賞（特別賞）

メダ力が教える犯罪・非行のない社会

千葉市立登戸小学校

五年

松本圭賜郎

新学年になり、クラスでメダ力を飼うことになった。前の五年生の水槽を引き継いだが、春休み中の世話が十分でなかったせいか、ガラスはコケだらけで、水も汚れていて、二十四のメダかも元気がなかった。主に飼育係が世話することになっていたが、エサや掃除のやりかたがよくわからなかったせいか、四月末には半分近くまでメダ力が減ってしまった。

僕が転校する前に通っていた小学校では、メダ力は研究クラブで飼っていて、メンバーの僕は、エサをやり過ぎると水が汚れて病気の原因になることと、一か月に一回は水を変えて、コケ取りや砂利の掃除をする飼育方法を知っていた。しかし希望していた飼育係になれなかったのも、実際の係に手間のかかる方法をあまり強く勧められなかった。ただメダ力が死ぬのは水質のせいだと気づいて、何とか助ける方法はないかと考えた。昔、自宅

の水槽に用水路でつかまえたヒメタニシを入れると、水がきれいになったのを思い出し、ゴールデンウィークの前に、先生の許可をもらってクラスの水槽にヒメタニシを三匹入れてみた。連休明けにドキドキしながら水槽を見ると、コケが減り、水もきれいで、メダかも見違えるように元気に泳いでいた。環境が良くなったせいか、メダ力は盛んに産卵し、順調に増えてきた。タニシは静かにコケやフンを掃除し続け、稚貝を十匹も産み、今は親子で掃除をがんばっている。

クラスの皆も、タニシがきっかけで環境が良くなった水槽に興味がわいたようで、日々の水槽の状態を飼育係に知らせくれるようになった。それまでは業間休みには汚れた水槽に見向きもせずに校庭に飛び出していた友達も、水槽をじっくり観察し、メダ力やタニシのことを話題にするようになった。

メダカは群れを作って生活し、産卵時期を除いては、お互い争うことのない平和な生き物で、水がきれいだとすくすく育ち産卵する。ただ水質が悪いとストレスをためてケンカしたり、飼う密度が高くなると自分が産んだ卵を食べてしまうことがある。メダカには悪気は無いが、正しくない環境がそうさせてしまうのだ。

人間はどうだろう？今の社会環境は正しいだろうか。メダカには良い水質、人間は騒音や大気汚染のような環境問題が無いこと。メダカには適切な生育密度が大事だけど、人間は過密や過疎が進んでいないか。これらは僕の周りでは今のところ問題ないと思う。メダカはストレスが無ければ平和に群れで暮らす、今の社会環境はストレスが無いと言えるだろうか。無邪気に泳ぐメダカたちや、黙って壁を掃除するタニシたちを眺めながら、ストレスの無い社会環境を作るにはどうしていけば良いか考え込んでしまった。

水槽を見つめている僕に友達が、「メダカにエサをあげて良いかな？」と話しかけてきたので、「飼育係に一声かければ良いんじゃないかな」と返答しながら、四月には皆よそよそしくて、こんな会話は無かったことを思いだした。僕は飼育係ではないけれど、ヒメタニシを入れたのは僕なので、みんな気をつかってくれている。こ

うしてメダカやタニシの話題が出ることで、クラスが明るくなった気がする。タニシを入れることで水質だけでなく、クラスのメダカへの向き合い方も好転し、会話も増えた。つまりストレスが無い環境ができつつあると思える。

社会ストレスを減らすためにも同様に、まず環境のために何かやってみることが大切ではないか。メダカやタニシを見る目がクラスのふんいきを変えたように、皆で地域の生き物、野鳥やチョウ、樹木や草花に目を向けてみるのはどうだろう。例えば僕の住む千葉市は、「身近な生き物さがし図鑑」を公開し、その多様性の保全をうたえている。多くの生物は無邪気に日々一生懸命生きている。その姿から人間はもつと学ばべきではないか。見知らぬ他人も無邪気に日々一生懸命生きていると考えることで、広い心の社会を作り、ストレスが無く、犯罪・非行の無い地域にしていけることが大事ではないかと考えた。

僕の住む家の街路樹では今、アオスジアゲハの幼虫が元気に葉っぱを食べている。連日の日照りで元気が無い街路樹に水をかけてやりながら、幼虫も元気に育つことを祈りつつ、街路樹脇に捨てられた空き缶とゴミを片付けた。



千葉県保護司会連合会長賞

「ありがとう」「ごめんね」の一言で社会の色が変わる

大多喜町立西小学校 六年 渡^{わた}辺^{なべ} ゆめ

いいことをした時、「ありがとう」という一言、失敗をしてしまった時、「ごめんね」という一言、その二つの言葉を言われると、相手も自分も笑顔になってみんなうれしい気持ちでいっぱいになります。そのたった一言を言うだけで、助けられる人がたくさんいると思います。

三年前、私はおじいちゃんが車で学校の迎えに来てくれて、家におろしてくれるとき、つい学校での疲れが行動に出てしまい、素っ気ない態度で接してしまったことがあります。おじいちゃんがわざわざ迎えにきてくれたのに、「ありがとう。」を言いませんでした。その翌日、おじいちゃんが亡くなってしまいました。私は、「迎えに来てもらったのに、なんでおじいちゃんにありがとうって言わなかったのかな、一言言えばよかったな。」と悲しい気持ちと後悔の気持ちでいっぱいになりました。そ

の経験から今は、迎えに来てくれたおばあちゃんやお母さん、お父さん、お姉ちゃんに「迎えに来てくれてありがとう。」という感謝の言葉を忘れず言い続けています。

自分が感謝の言葉を伝えると、みんなが笑顔になります。このたった一言でみんなが明るくなるのであれば、これからも「ありがとう。」をたくさん言っていきたいなと思います。また、自分も「ありがとう。」を言われると気持ちがよいので、これから友達や家族、先生に「ありがとう。」と言われる存在になれるように、周りを積極的に助け、よいことをたくさんしていきたいなと思います。

「ありがとう。」という感謝の言葉を言わないと、よいことをした人に対して失礼にあたってしまうと私は考えています。私はおじいちゃんのことから、一言でも言

葉で伝えるのはとても大切なことだと感じました。そこで、自分が助けられた時には「ありがとう。」という習慣をつけようと思います。そうすることで、感謝を伝えるのはすごく大切なことだということを、自分でも忘れないようにしていきたいです。

もう一言「ごめんね。」という言葉があります。私は「ごめんね。」という言葉を使うのは難しいと思っています。「ごめんね。」と言うことはとても簡単なことなのだけども、「ごめんね。」を言うときは、何かよくないことがあったときで、その一言を言うには、とても勇気がいるからです。けんかをしてしまったり、友達を傷つけてしまったり、物を壊してしまったりしたときです。

「ごめんね。」と伝えても、必ずしも許されるとは限りません。しかし、伝えないと相手に気持ちちは伝わりません。だからこそ、とても勇気がいる言葉だと思います。私は、知らず知らずのうちに友達を傷つけてしまったことがあります。その時、口では許してもらえても、なかなか心の底から仲直りできませんでした。しかし、謝らなかつたらもっと仲が悪くなってしまうかもしれない。その時は許してもらえなくても、「ごめんね。」の一

言で悲しい気持ちが軽くなることもあります。「ごめんね。」の言葉も心をこめて言うことが大切だと思います。また、謝っても絶対に許せないこともあります。そのようなことは絶対にあつてはならないことですが、もし、許されないことをしてしまったときには、謝るだけでなく、その後の行動を直していくことも大切だと思います。

私は、「ありがとう。」と「ごめんね。」は、みんなで気持ちよく生活していく上でとても大切な言葉だということを感じました。みんなが明るく生活していくために「ありがとう。」と「ごめんね。」の一言を大切にしていきたいと思います。そして、世の中に「ありがとう。」の言葉があふれかえったら、素敵だなと思います。この二つの言葉があれば、社会の色は明るい色になると信じています。



千葉県更生保護助成協会理事長賞

ありがとうで明るい社会に

市原市立白金小学校 五年

友^{とも} 邊^べ 結^{ゆい} 人^と

ぼくには、九十三才のひいおばあちゃんがあります。ひいおばあちゃんは、高れい者し設で過ごしているため、なかなか会えません。先日、面会許可がでたため、お母さんとぼくで、ひいおばあちゃんに会いに行ってきました。コロナかで小学生の面会はなかなかできなかったため、ひいおばあちゃんに会えたのは四年ぶりです。久しぶりに会えたひいおばあちゃんは、ぼくに会うな

り、
「大きくなったね。元気にしていたかい。何年生になったんだい。」
と、たくさんのおしゃべりがつきませんでした。面会時間が十分間だったため、あつという間に楽しい時間は過ぎていきました。
帰り際、ひいおばあちゃんとお別れをする時に、

「今日は来てくれてありがとう。とてもうれしかったよ。ありがとう。ありがとう。」
と、何度もお礼を言ってくれました。

その時ぼくは、はつとしました。今までたくさんの人にお世話になってきたぼくは、感謝の気持ちを伝えられているのだろうか。改めてぼくの生活を振り返ってみると、何でもやってもらえることが当たり前になっていて「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えていなかった自分に気付きました。

毎日おいしいご飯をつくってくれありがとう。家をピカピカにそうじをしてくれてありがとう。ぼくとキャッチボールをしてくれてありがとう。ぼくと仲良くしてくれてありがとう。いつも、ぼくの周りにいる家族や友達にも言えていなかった「ありがとう」が数え切れないほ

どあることに気付きました。

お母さんは、ぼくによく言います。

「ありがとうと思っただけでは、相手に伝わらないよ。言葉にしてこそ、ありがとうの気持ちが相手に伝わるんだよ。そして、身近な人に感謝するんだよ。まず、友達に感謝すること。」

お母さんのこの言葉の意味を改めて考えてみた時、もつと友達や家族を大切にしないといけないなと思いました。そして、ぼくの生活に関わってくれているすべての人たちに感謝の気持ちをもたなければならないと思いました。

「ありがとう」の五文字の言葉は、たった五文字でも重みがあり、身近な人たちへ感謝の気持ちを伝えることのできる大切な言葉だと気付きました。

僕は、この感謝の気持ちがある世の中にいっぱいになれば、犯罪は無くなっていくと思います。ぼくがひいおばあちゃんの言葉から感じたように、感謝の気持ちがあれば、犯罪をせず、周りの家族や友達のことを考えながら生活できるのではないだろうか。相手のことを考え、感謝の気持ちをもつこと。そして、言葉で感謝の気持ちを伝

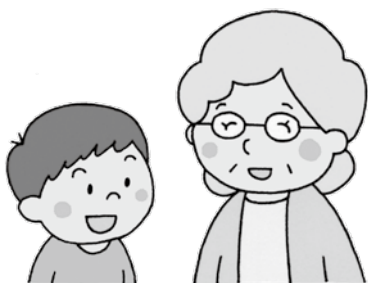
えることが、犯罪をなくす第一歩になると思います。

今のぼくなら言えます。大切な家族、友達、身近な人たちへ。

「いつも温かく見守ってくれて、ありがとう。ぼくのそばにいてくれて、ありがとう。」

そして、ぼくに「ありがとう」の大切さを気付かせてくれたひいおばあちゃん、

「ありがとう。これからも元気に長生きしてね。」





千葉県更生保護女性連盟会長賞 私にできる事

茂原市立豊岡小学校

六年

川崎葉月

「社会」という言葉を調べると、「人間が集まり、生活を営む集団。」とあった。

私にとっての社会は家庭や学校、塾だけれど、大人になると職場も社会になっていく。結婚すれば新しい家庭ができ、子どもが生まれれば、また新しい社会ができる。高齢者になれば、高齢者施設や病院が社会になっていくこともあるのだらう。

このように年齢と共に環境が変わり、自分を取り巻く社会の形も変わっていく。そのようなことを想像しただけで、大変だなと思ってしまふ。

私の家庭は特に問題もなく、円満だが、誰かが体調をくずしてしまふとガタガタと一気に生活リズムが崩れてしまふ。そうなると家族が健康でいることの大切さが分かる。また、学校ではクラスメイトが三十人近くいて

十人十色なのでまとめる先生も大変だと思うがその反面、宿泊学習や運動会などの大きな行事では、このような個性あふれるメンバーだからこそ楽しいと思える瞬間も多い。だから、私はクラスメイトに恵まれていると思う。また、塾の友達が良い成績をとるとほめてくれ、悪い成績をとると互いに励まし合うこともできる。このように、塾の友達にも恵まれている。考えてみると「どの社会でも上手くやれているな・・・。」と思ったが、私の周りの人は私のことをどう思っているのだろうか。

母は忙しそうに家事をしている。気付けば私の部屋を掃除してくれて、塾の送り迎えや毎日のお弁当も作ってくれている。何だか申し訳ないなと思い、私は母を喜ばせようと夏期講習が終わった日に、コンビニで母の好きなスイーツを買って帰った。「夏期講習無事に終わった

から、いろいろとありがとう。」と言って渡すと、母は「気を遣わなくていいのに：。」と言ってわらび餅を食べた。美味しそうに食べる母を見て、買ってきて良かったと思い、心が温かくなった。また、このような少しの思いやりでお互いの心を明るくすることができたと思う。

「社会を明るくする」とは、みんなが笑顔で生き生きと暮らすことだと思っていたけれど、もしかしたらもっと身近なもので、自分の周りにいる人を思いやることから始まるのかもしれない。

例えば、自分に家族や友達がいないと想像してみると、きつととても悲しく、寂しい気持ちになるだろう。けれど、もし「私は今、悲しく、寂しい。」と言える相手がいて、その相手が自分の言葉に共感してくれて寄りそってくれたらきつと気持ちが楽になると思う。

例えば東日本大震災から十三年が経つが、今もたくさんの人々が助け合い、支え合いながら頑張っている。また、病気の人もそうだと思う。ひとりでは耐えられないほどの体の痛みや、心の痛みも、気持ちに共感し、声を掛けてくれるだけで痛みが治まると思う。このように、ひとりでは乗りこえられないものを誰かと共有すること

で乗りこえることができる。

だから人間には社会があり、社会が必要なのだと思う。私も、社会の一員として病気に苦しんでいる人に寄りそいたいと思い、医師を目指している。

なので、私は誰かに手を差し伸べ、寄りそい合うことができればみんなが生きやすい世の中になり、社会は明るくなると思う。



小学生の部



千葉県BBS連盟会長賞

広げようあいさつプラス1ワン

鴨川市立鴨川小学校

五年

山田健生

学校が大好きだ。学校に行けば友達と遊んだり、おしゃべりしたりできるし、運動会や遠足などの行事もあるし、楽しいことがいっぱいあるからだ。

いつもは学校が大好きなぼくでも、学校に行きたくないな、休みたいな、と思うときがある。でも、「なんだから行きたくない」という理由だと、お父さんもお母さんも話は聞いてくれるけど、

「具合がわるくなければ休まないで行くよ。」

と言つので、しかたなく学校に行くことにする。

そんなときは、学校に行く足はいつもの何十倍も重くて、なかなか前に進まない。ランドセルは、いつもと同じくらいしか入っていないのに重くてかたが痛くなる。暗い気持ちになって、下を向いて歩いていると、

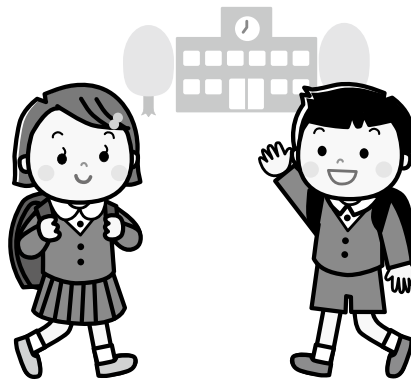
「おはよう。」

と、大きくて明るい声が聞こえてきた。顔を上げると校長先生がいつもの場所で、登校する子ども達にあいさつをしていた。校長先生の大きな声と、につこり笑顔の顔を見たら少し元気が出てきた。いつもみたいな大きな声であいさつはできなかったけど、校長先生にあいさつをして、少しでも野球の話をした。この朝の、時々する校長先生との野球の話がとても好きだ。阪神が好きな校長先生とロッテが大好きなぼくは、試合の結果や、お気に入りの選手、大谷選手のことなどを話す。笑顔の校長先生とあいさつをして、大好きな野球の話をして、なんとなく学校に行きたくなかったこの日は、なんだかちよつと元気が出てきた気がした。重かった足やランドセルのことも忘れてしまっていた。それから急いで昇降口に行き、友達に会つといつものようにあいさつをして、今日

何して遊ぶか話をする、なんとなく行きたくないと思っていた気持ちを忘れていた。ぼくはこの時、あいさは、本当に人を元気にすることができると思った。そんなパワーをもっていることを実感した。

だからぼくも、あいさつで誰かを元気にしたいと思った。ぼくみたいに、元気がなかったり、いやなことがあったりした人にも、校長先生みたいに、いやなこともふつとばしてみんなが元気になるような大きな声であいさつをしよう。そして、ぼくがしてもらったように、自分から元気なあいさつと笑顔、そしてプラス1^{フツ}ができたらいいなと思う。プラス1^{フツ}は自分にとっては野球の話だったけど、「元気?」、「今日もがんばろうね。」とか、登下校で見守ってくれている地域の人には、「いつもありがとうございます。」など、今はなかなか思いうかばないけど相手の様子を見て、一言、言葉を付け加えるといいなと思う。

この誰かを元気にするあいさつを、家族、学校、地域、会った人みんなに広げていきたい。





千葉保護観察所長賞

車いす利用者になって感じたこと

木更津市立八幡台小学校 六年 鎌田 ひかる

私は去年、足のケガで手術をしました。車いすと松葉杖を使わないと歩けなくなり初めて「障害がある人や車いす利用者、妊産婦、高齢者」の優先駐車場を利用しました。その際、周囲から向けられた様々な反応に対して疑問に思うことができました。

優先駐車場を使うとき、私は利用対象者なのに「空いているから停めているのでは？」という視線を感じたのです。私のようにケガをしている人でさえ嫌な思いをしたのに、外見ではわかりにくい妊婦や精神的な障害を持った人はきちんと利用できているのだろうかと気になり、優先駐車場について調べてみることにしました。

優先駐車場や思いやり駐車場の利用対象者は「障害者介護が必要な高齢者、妊産婦、ケガ人など歩行が困難だと認められる人」と定められており、外見ではわかりに

くい障害のある方も利用可能、と書かれてありました。

また、二〇一六年に千葉県内の障害者等用駐車場を対象に障害者団体が行った調査によると、実際に利用している八割が健常者だということがわかりました。また、利用対象外の人が思いやり駐車場に停めるのを見たことがあると答えた人は全体の六割という結果ができました。調べてみて感じたことは、まず優先駐車場の利用対象者やルールを周知することが大切だということ、そして健常者自身の意識やマナーの問題だということです。私自身、体験を通して感じたことや調べてわかったことを周りの人に伝えていきたいと思います。実際に車いすを利用したことで車いす利用者等に対する日本人の意識の低さにがっかりする体験をしました。冬休み、家族でテーマパークを訪れた際、映像をみる時間があリ、一番前に

車いす専用の席が設けられていました。スタッフの方が優先的に席を空けてくれていましたが、日本人の家族が我れ先にと優先席にすわろうとしました。そのとき海外の観光客の方が私を見ながら「ここは車いすの人の席ですよ」と注意してくれました。海外の方のおかげで気持ちよく座ることができ、とてもうれしい気持ちになりました。ケガをするまでは、日本は障害者福祉や制度が進んでいて、人々の意識も高く思いやりにあふれた国だと思っていました。すべての人がというわけではありませんが、いくつかの体験を通して日本と海外の方の障害者や車いす利用者等に対する意識の違いがあるのではないかと感じました。

日本では障害を持った人というかわいそうな人、サポートが必要な人と見ることが多いように思います。一方で海外では様々な持ちようを持った人たちの一人という考え方がされていることです。たしかに障害などがある人はサポートを必要とする場面が多いかもしれませんが、健康者とされる私たちにだってサポートが必要な場面はたくさんあります。

私が経験した優先駐車場や優先席での出来事はほんの

一部にすぎないかもしれませんが、こうした嫌な思いや生きづらさをなくしていくためには「人間は皆違うんだよ」ということを認めることが大切だと思いました。もっとゆずり合いの心が一人ひとりに広がってほしいと強く感じました。





千葉県小学校長会長賞（奨励賞）

できることから一つずつ

千葉県立土気南小学校 六年

宇井

あける 明

みなさんは「社会を明るくしよう」と考えたときどんなことを考えるでしょうか。戦争のことや政治のことなど、大きな問題について考える人が多いのではないのでしょうか。しかし、自分で戦争を無くしたり、政治で社会を変えたりすることは、今の自分にはまだ難しいです。だからぼくは、大きな問題ではなく、身の回りにある小さなことから一つずつ、変えていくことが大切だと思います。

ぼくは、「自分が明るくなること」が一番大切だと思います。自分が明るければ、自然に周りが明るくなり、明るい人が寄ってくるからです。逆に、自分が暗い気持ちだと、それは周りの人にもえいきよします。学校で農山村留学へ行き、みんなでキャンドルサービスをした時のことをよく覚えています。最初はたった一つの火の神

の炎は、火の子だったぼくの元へ、そしてその火はクラスの友達にわたっていきました。ろうそくからろうそくに火が移り、増えていくにつれて、体育館もどんどん明るくなっていきました。誰かの明るさが周りの人に伝わり広がっていく様子とよく似ていると思いました。ついに全員のろうそくに火がわたった時には、みんなの心がつながったように感じました。

ぼくはバスケットボールチームに所属しています。強い相手との試合、点差がどんどん開いていき、とうとうぼく達は負けるのではないかと落ち込んでいたことがありました。その時間こえてきたのが、同級生のチームメイトの声でした。

「もっともり上げよう。雰囲気ですべて勝てなきゃ、バスケじゃ勝てないよ。」

その明るい一言で、チームの空気が変わりました。点差のことを忘れ、夢中でボールを追いかけて、仲間にパスをつなぎ、必死に走りました。開いていた点差は少しずつ縮まり、ついにその試合では、逆転勝利を収めることができました。その経験を、ぼくは忘れることができません。その時から、ぼくは友達を見習い、自分が明るくすることを意識するようになりました。

このように、自分が明るいふんい気であることで、自然と周りも明るくなっています。この明るさは、学級、学年、学校、そして地域へと広がっていくことができます。思います。「できることから一つずつ。」たった一つのことが、周りを大きく変えるきっかけになる可能性があります。今は難しいかもしれない「戦争を無くすこと」「社会を変えること」も、みんなの小さなきつかけが集まれば実現できるかもしれません。心の火を、人から人へと移し、増やしていくことで、次第に社会も明るくなっていくと思います。その最初の火を自分の手で灯すことができるように、毎日自分にできること一つ一つを大切にしながら過ごしていきたいと思います。



法務省からのお知らせです

「更生保護」って なんだろう？

ホゴちゃんの
更生物語



その後、ホゴちゃんは立ち直ろうとしている人を温かく見守る心優しいペンギンになりました。いつも、犯罪や非行のない明るい社会を願って活動しています。



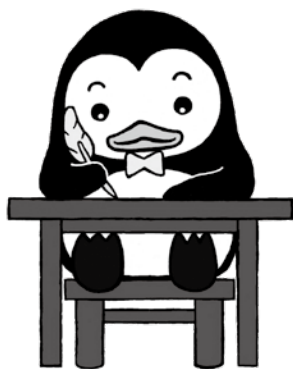
「幸福の黄色い羽根」は、犯罪や非行のない幸福で明るい社会を願うシンボルです。

更生ペンギンのサラちゃん



地域のチカラで立ち直りを支える更生保護

中学生の部作品





千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）

向き合い、知ることの大切さ

千葉市立大椎中学校 二年

渡辺 結衣

「犯罪 非行」

この言葉は今、私にとってとても遠いところにある。例えば世界では犯罪、非行が行われないように各国で法律やルールを定めて、それを守れなかった人に罰則が下される。もう二度と同じ過ちを犯さないように。だがひとりひとりはどうだろうか。最近のニュースを見ていると私はひとりひとりの意識が疎かだと思う場面が多々ある。かく言う私も日頃からニュースこそ見るが、犯罪について知ることは怖くて調べようとすることはなかった。

そんな時、今年の夏休みに友人に誘われ千葉地方裁判所に傍聴人として人生で初めて裁判所に行った。私達が傍聴した裁判は、建造物侵入幫助、強盗致傷幫助、窃盗を犯した裁判だった。私は初めて訪れる裁判所内に胸を高鳴らせながら足早に法廷に向かった。音を立てないよ

うにゆっくりと扉を押すと、法廷内はえもいわれぬ緊張感と静寂に包まれていた。

しばらくすると裁判官や被告人、検察官が入ってきた。「これより千葉地方裁判所における建造物侵入幫助、強盗致傷幫助、窃盗事件の審理を開始します。」

裁判官の野太い声が静寂を破った。それから手錠を外された被告人が証言台へとゆっくり歩み寄った。身長の高い男性、首元まで伸びる外側にはねた髪、足取りは重く目線は下を向いていた。こんなに何個も罪を重ねている人はきつと悪辣に違いないと思っていたが、証言台に立ち真っ直ぐ前を向きながら質問に受け答える様子は私のイメージする悪辣とはとても遠のいていた。その後も被告人は事件について淡々と真摯に答えていた。ひたむきに答えるその姿勢に少し前まで悪辣だと思っていた人

の話に前のめりになっていた。そんな被告人に最後、こんな質問がされた。

「あなたはこれから二度と罪を犯しませんか？」

緊張や同情、怒り、様々な気持ちが渦巻く中、被告人の言葉を一言も聞きもらすまいと私は固唾を吞んで見守った。

「はい。」

意思のこもった芯のある強い声だった。たった一言の言葉なのにこの人からは自分の罪を見つめ直そうという強い意志が感じられた。私はこの裁判で犯罪者への考え方が変わった。罪を犯してしまったという事実は今もこれから変わらないが、自分の罪を認め、受け止めることで自分も、巻き込んでしまった人も少ないながらも報われる。とても小さいものかもしれないが、積み重ねることとで救われる人は必ずいると思った。

「犯罪、非行」

この言葉は以前、私にとつてとても遠いところにあったが、今は違う。なぜなら傍聴を体験して気が付いたことがあるからだ。それは私が今まで「犯罪はやってはいけないもの、犯罪は知らなくていいもの」という固定

概念に囚われ向き合おうとしなかったことだ。もちろん「犯罪はやっていけない」という考え方は変わらないが、知ることでも犯罪へのひとりひとりの意識は変わる。以前の私がそうであったように怖くて手を出せない人がまだ山ほどいると思う。それでもまずは知ってみる、向き合ってみることから始めてみてはどうだろうか。ひとりひとりの意識が変われば自ずと犯罪は減る。そうしたら誰にでも新たな道が開けると私は思う。





千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）
全日本中学校長会会長賞

傍聴から考えた出所者の更生について

浦安市立浦安中学校 一年 塚本愛子

昨年の冬、私は東京地方裁判所に行き、裁判の傍聴をしました。民事事件、刑事事件ともに数件ずつ傍聴し、なかでも最も強く印象に残った事件は「窃盗事件」でした。

被告人席に座っていたのは、まだ二十代前半と思われる若い男性でした。彼は、転売目的のために量販店で大量の衣類を盗んでいるところを現行犯逮捕され、勾留されていました。傍聴していくにつれ、犯罪に至る経緯が見えてきました。被告人には病弱な妻と未就園の小さな子どもが二人おり、コロナなどの社会情勢もあり、やむを得ず生活のために犯罪に手を染めてしまったのです。この裁判が行われている、今この瞬間も、被告人である父親の帰りを小さな子どもが首を長くして待っているのか、と思うと、私は胸が苦しくなりました。生活のためとは言え、盗みでお金を得ること以外に、もっと他に方

法を探らなかつたのか、とも強く思いました。そして被告人を見ながら同じ「父親」という存在である私の父のことを思い出しました。父が毎日真面目に仕事に向かう姿を……。今までそれが当たり前だと、いえ、当たり前と思うこともないほどに意識していなかったと反省しました。父への感謝の気持ちで沸き起こってくると同時に、食えることにも困っているかもしれない被告人の家族を想い、複雑な気持ちで裁判所を後にしました。

私は法務省赤れんが棟の「法務史料展示室」にも行きました。数々の貴重な法務資料がありましたが、江戸時代の「入墨刑」の資料に大変衝撃を受けました。罪人に一生消えない入れ墨を施すことで、周囲から生涯「前科者」として認識されるのです。江戸時代には見せしめとして犯罪抑止力の効果があつたのかもしれません。しか

しこれでは、心を入れ替えて更生しようとしても周囲の目が厳しくやる気をそがれてしまします。

前述の事件の被告人は、裁判の後半にこのように言いました。「これからは、家族、親戚、知人の力を借りて真面目に働く」と。この被告人は、助けあう人間関係の中にいるように見えました。私はこの「温かい人間関係」に立ち直りの鍵があると考えました。残念ながら罪を犯してしまった人でも、周囲の人たちとの「温かい人間関係」があれば、心身共に休み、反省し、力をつけ、立ち直る可能性があります。それでは何らかの理由で「温かい人間関係」が望めない人たちはどうしたらよいのか、私は調べてみました。すると、今の日本にはそういった方たちにも手厚い支援があることを知りました。まずは「保護司」という、出所者の立ち直りを一番近くで見守る人々の存在があります。他にも「自立更生促進センター」「就業支援センター」など、様々な施設・制度があることも学びました。私が驚いたのは、保護司の活動は、民間のボランティアであり「無給」ということです。報酬を求めず、更生を支援するその熱い想いがまさに「温かい人間関係」です。

江戸時代のように「入墨刑」をして社会から前科者を

切り離してしまうことは簡単ですが、それでは根本的な解決になっていません。社会全体で問題を捉え、支援していくことが「犯罪や非行のない明るい社会づくり」につながると思います。

また、犯罪や非行が起こる前に社会で何ができるかと考えました。私は「教育」だと思っています。宮口幸治『ケーシーの切れない非行少年たち』によると、多くの非行少年は簡単な漢字の読み書き、算数の理解が不十分な傾向にあるそうです。私はその本を読み、学校全体で読み書き計算の反復練習をすることが、その地域の犯罪・非行を減らせると考えました。特に算数では「AだからB」「BだからC」と論理立てて思考する練習をします。この思考法が、「これをすれば逮捕される」「逮捕されれば家族が悲しむ」と筋道を立てて思考することができ、犯罪・非行への歯止めが効くと思います。私は「温かい人間関係」と「教育」の二本柱で明るい社会を作ることができると信じています。

裁判の傍聴から約半年が経過し、おそらく前述の被告人は家族の元に戻っていると思います。国やボランティアの皆さんの支援を受け、現在は笑顔で暮らしていることを願っています。



恥ずかしい私の母

千葉県推進委員会委員長賞（県知事賞）

睦沢町立睦沢中学校

二年

杵^{すき}

森^{もり}

大^{ひろ}

沖^{おき}

私の母は本当に恥ずかしい人だ。登校する時、我が家の前を歩いている学生に、「いつてらっしゃい。車に気を付けてね。」と大きな声で言っている。何より恥ずかしいのは、私の同級生が下校中に不意の雨に打たれているのを見かけた時に、「傘使う？良かつたら車で送ろうか？」と男女問わず声をかけまわることだ。同級生たちの返事は決まって「大丈夫です。」と。いつもいつも断られるのに、どうして声をかけるのだと。その場から逃げ出したい気持ちになる。また、それだけでなく私から見たらそんなに困っていないだろうという人にまで声をかけるから恥ずかしい。私は、そんな母に我慢ができません。見かねてこんなことを言ったことがある。「毎朝校門の前に立っている先生じゃないんだから！そんなにみんなに声をかけまわるなよ！」と。少し言い過ぎたかなとヒヤツとしたが、母は意外にも平然とした顔をしていた。いや、むしろニヤニヤしていた。そんなにおか

しいことを言っていないと、母の態度にまた腹を立てた。

私が体調を崩して、母と二人で病院に行った時のことである。診察を終えた帰りのエレベーターでの出来事だ。途中で私たちの乗っているエレベーターが開き、大柄なおじいさんが車椅子に座っている姿が見えた。よく見ると、手には点滴を持っていて、後ろに細身の小柄なおばあさんが車椅子を押そうとしている姿も見えた。押しにくそうだなということとは容易に想像ができたが、私には他に思うところはなかった。しかし、しばらく経つても車椅子が動く気配がなかった。「乗らないのかな」と思っていると、「早く押せよ。」とイライラした様子でおじいさんがおばあさんを怒鳴る声がした。その声に驚きはしたが、あくまでも他人事と思っている私は、その入り口を見ないようにはしていた。すると、母が動き出した。「大丈夫ですか。代わりに押しますね。」と。周りに響くよ

うな大きな声でそう宣言し、車椅子を押そうとしていた。しかし、母の力でも一向に動く気配がなかった。おじいさんの乗った車椅子はびくともしなかった。「お母さん……、また無茶して……。ただだけ恥ずかしいと思ってるんだよ。」仕方なく、私は母の代わりにその車椅子を押した。実際に押してみたら、思っていたよりもずっと重くて、おばあさんや母の力で押せないことにも納得ができた。車椅子の操作の仕方も難しく、四苦八苦したが、なんとかエレベーター内におじいさんを移動させることができた。その後、降りる階も同じだったので、自分が恥ずかしい思いをする前にと、そそくさと、私は黙っておじいさんの車椅子を押して一緒に降りた。すると、おばあさんが、「お兄ちゃん、大変助かりました。本当にありがとうございます。」と深々と頭を下げて、丁寧にお礼を言ってくれたのだ。母ではなく、私に向けられたその言葉に、正直驚いた。私は、母の行動がたまらなく恥ずかしくて、早く終わらせたいと思って行動しただけで、決しておじいさんやおばあさんのためを思って行動したのではないからだ。それなのに、あんなに深々と頭を下げられて……。私は逆に申し訳ない気持ちでいっぱいになった。

母に車椅子を押したことがあるのかと聞いたら、「押ししたことないよ。初めてだったけど、あんなに難しいと思わなかったよ。」とあっけらかんと言っていた。私は、そ

の返事にもまた驚いた。初めてだったら上手にできるかどうかともわからないのに、よく人に声をかけるなど、私にはとても考えられない行動だ。「なんでそんなに人に声をかけるの?」といよいよずっと疑問に思ってきたことを声に出してみた。すると、母は「ただその人がしてもらったら嬉しいかなって思うことをしたいだけ。」と言った。私には衝撃的な一言だった。これまで恥ずかしいと思っていた母の行動は、私目線の身勝手な偏見だったのだ。声をかけられた人の気持ちなど考えたこともなかった。一番恥ずかしいのは、私自身の考え方だったのだ。私は、申し訳なくて、母の顔を見ることができなかった。

この経験から学んだことは、人のことを考えたり、行動したりすることを「人を思いやる」という言葉で表現できるということだ。そうやって考える人で世の中があふれたら、非行や犯罪の起きにくい、明るい社会になるのではないかと考える。なぜなら、非行や犯罪の多くは自己中心的であり、相手の幸せのために起こす行動ではないと思うからだ。人の立場を考えて行動することの大切さを、私は母から学んだ。そんな母みたいな人になれたらいいと思う。まだ私には恥ずかしくて母のようにあっちにもこっちにもと声をかけることはできないけれど、周りの友だちからでも声をかけられるようになりたい。それが未来への明るい一歩につながるのだ。



千葉県教育委員会教育長賞（特別賞）

つながりの輪が社会を照らす

市原市立国分寺台中学校 一年

宮^{みや}原^{はら}愛^な和^な

社会を明るくするとは、どういことだろう。正直

よくわからない。市町村から全国まで、社会を形成する規模ならわかる。ならばそこに暮らす人々について考えてみよう。暮らしぶりに着目することで社会について何か気付くかもしれない。そして、自分の思いが社会を明るくするヒントになるかもしれない。こうして私は人生初の「社会とは？」に向き合ってみた。

まずは、一番身近な地域のコミュニティ。私は、両親が学校関係の仕事をしているため、二人が不在の時は、一人で過ごすことが多い。小学校では学童保育を利用していたが、今は家で留守番をして過ごす。時々学校で、担任の先生から不審者情報の話を聞くことがあるが、そもそも近所に中学生がいないので、行きも帰りも一人だ。でも私は孤独ではない。というか、そう感じるこがな

い。それは、地域に守られているからだ。

「おはよう。今日も暑いね。」

「いつてらっしやい。気を付けてね。」

「おかえり。ご苦労様。」

「夏休み楽しみだね。背も伸びて大きくなってきたね。」

こうした言葉を、近所の方々から毎日のように声掛けされて私は大きくなった。赤ちゃんの頃は、抱っこされたりお年玉をいただいたりしたこともある。よくよく考えてみると、玄関を開けた時から、私は地域の人々に見守られている気がする。特に三人のお婆様方とのそう遇率は百パーセントだ。必ず誰かが道路にるので、挨拶やちよっとした話をする。こうしたことが不審者を近づけず、私の安心につながっていると思う。

私のように、年齢や暮らし方に関係なく、地域の「コミュ

ニケーションが活発になれば、そこに交流が生まれ、人々が支え合い、明るく暮らせるのではないだろうか。実際、そのお婆様達は、笑顔でおしゃべりをして楽しんでいる時には、野菜やおかずを手にお互いの家を行き来している姿は家族のようだ。

人の集まる所は笑顔が多い。コロナで人の集まる機会が奪われた。年中行事が自しゆくされ、夏休みが減り、夏祭りや花火大会も無くなった。人とのコミュニケーションをとることが減り、大人も子ども家にももった。その時の社会は、不安でさみしく、暗かったように思う。今は完全にコロナ前に戻ったわけではないが、人とのコミュニケーションの場所が戻ってきて、人々の笑顔が増えた気がする。たくさんさんの友達と一緒に過ごす私の日々は笑顔でいっぱいだ。

今の社会は、地球温暖化や平和問題、不安定な経済状況等、心配なことが多い。A-の発展で将来の職業もどうなるかわからない。変化の激しい世の中で、人がどうつながっていくかで、社会は変わる。私のように、近所同士が顔見知りになれば、そこに会話が生まれ、結び付きができる。お互いの人柄も分かり、より声掛けもしや

すくなる。災害時等、何かあれば助け合う関係も築くことができるのではと思う。実際、大雪の翌日に父が足腰の弱った人の家の雪かきをしている。

こうしたつながりの輪が広がるのが、先行き不透明に見える社会の光となり、人々の心を温めるのではないだろうか。今日も、

「暑いねえ。部活行くの？ 気を付けてね。」

「ありがとございます。いってきます。」

もはや、日常のルーティーンになりつつある。

私の生きる社会は、まだ狭いかもしれない。でも、まだ私の知らない広い社会を十分照らす明るさをもっている。小さなランタンが一齐に空に舞うように、人々のつながりが今の社会を明るくできるよう、私もつながっていききたい。

中学生の部



千葉県保護司会連合会長賞

社会を明るくする家具

香取市立佐原第五中学校 一年 中井琉偉

母とデパートに行った時、特設会場があった。そこに

は、家具や小物などが売られていた。その家具へ近づきよく見ると、とても丁寧に作られていて、僕でもわかるほどの立派なものだった。しかし、立派なものにもかかわらず、価値は思ったより安かった。家具と価格を交互に見ている僕に母は、「この家具は、刑務所の受刑者達が作っているのよ。」と教えてくれた。そして、「刑務所の中で製品の作り方を覚えたりしているのよ。」と母が続けて言った。その言葉に僕は驚いた。刑務所の中で受刑者が作業をしているなんて思ってもみなかった。それと同時に、家具などの販売品に少し偏見の目で見える自分もいた。テレビでは、刑務所は小さな部屋に何人かいるところとしか僕は見たことがない。刑務所というのは、罪を犯した人が自分に与えられた刑期を全うし、罪を償う

場所とばかり思っていた。

家に帰り、早速僕は刑務所の販売品について調べてみた。刑務所で製作されたものは刑務所作業製品と呼ばれていた。そして、現在はいくらも親しめるブランドイメージに変えるとともに、「安くても品質の良い商品」を広く愛用してもらえるように、矯正協会刑務作業協力事業の英訳の頭文字をとり、「キャピック」と呼ばれているそうだ。さらに僕は疑問に思った。それは、なぜ受刑者が作業をするのかということだ。黙々と作業に精を出し、ものづくりをして何の意味があるのだろうか。いろいろと調べてみると、その答えがわかった。刑務作業をすることにより、受刑者の円滑な社会復帰を促進させるという目的だった。僕は、出所後は家族や友人などと生活をして、仕事をして、真面目に生きていくとばかり思っ

ていた。しかし、現実とは違ふようだ。再犯がとても多いということを知った。僕は、罪を悔い改め、真面目に社会生活を送っていくだろうと思っていたので、頭の中に「どうして?」「なぜ?」という言葉が浮かんだ。再犯が多い理由に、「学業や仕事を続けられない。」「仕事が見つかからない。」「真面目な友達が少ない、いない。」というのが理由だった。ここで僕は、刑務所内の作業がいかに重要であるかが頭の中で結びついた。働く意欲や持続する意思も作業を基に学んでいるのだと考えた。また、少しでも再犯を防ごうという目的でもあることがわかった。以前の僕だったら、刑務所作業製品を偏見の目で見てしまっていた。しかし、今の僕は違ふ。刑務所作業製品は明るい社会、安全な社会をつくり出す大切な製品だ。社会を明るくするためには、家具と同じようにいろいろな形がある。その一つである刑務所作業製品を僕が大人になったら、是非購入したい。なぜなら、それが明るい社会をつくる第一歩につながるからだ。



中学生の部



千葉県更生保護助成協会理事長賞

挨拶でつながる社会

木更津市立岩根西中学校 二年

能城 洸太郎

僕が住んでいる地域のおばあちゃんパワーはすごい。おばあちゃん達は、僕達を見ると、すぐに「おはようございませう。」と大きな声で挨拶をしてくれる。僕も負けじと大きな声で「おはようございませう。」と返す。学校から帰ってくると、「お帰り。」と迎えてくれる。ぼくは、見守られているようで安心する。また、おばあちゃんネットワークは強く、この地域の事なら、おばあちゃん達に聞けば大抵わかる。僕のことよく知ってくれている。「何で知ってるの?」と驚くこともあるが、自分を気にかけてくれていることは、嬉しい。さらに、いつも登校を見守ってくれるおばあちゃん、僕が朝集合場所にいないと、僕の妹に、「今日は、おにいちゃんはどうしたの?」と聞き、心配してくれる。僕達が安心してここに暮らしていられるのは、おばあちゃんパワーに支えられているからだと思う。「明るい社会」とは、こういう社会のことを言うのではないだろうか。

このおばあちゃんパワーには、もちろん僕の祖母も入っている。僕が小学生の時、祖母から更生保護女性会のことを教わった。祖母は、更生保護女性会の一員だった。小中学校を回ってお話をしたり、公民館祭りの時に啓発運動をしていたりした。その時に祖母が話してくれた「みんな一人一人が大事な存在なんだよ。」という言葉が今でも心に残っている。祖母が作ってくれた更生ペンギンのホゴちゃんとサラちゃん、我が家のかわいいマスコットだ。ホゴちゃんとサラちゃんを見るたびに、祖母の言葉を思い出す。

僕が安心できる地域に住んでいる一方で、社会では、残酷で悲しい犯罪がなくならないのが現状だ。僕は、犯罪のない明るい社会にするためには、人と人のつながりがとても重要な力だと思う。

僕は、保健委員に立候補したことがあるが二度も落選した。小学校の時は落ちたことがなかったから、落ち

たときはみんなに認められていない気がして、クラスで自分一人だけが取り残されているように感じた。もう何もやる気が起きなかったし、何かをやっても誰かに笑われるような気がして苦しかった。落ちたことが悔しくて怖くて、不安になって泣いていた時、担任の先生が声をかけてくれた。

「今、こうたさんはとても悔しいし、不安になっていると思う。でも、こうたさんはできる子なんだから、ここでもなにかもあきらめるんじゃないかって、その悔しさをバネにして、次頑張る原動力にしたらいんじゃないかな。」僕はこの言葉に救われた。自分を見守ってくれる人がいるんだと胸が熱くなった。自分が独りになった気がして怖くて流していた涙は、嬉しさの涙に変わった。

犯罪は、ある特別な人たちが起こすものではない。誰にでも、犯罪者になってしまう可能性はある。そのきっかけは人それぞれだ。でも、そのきっかけから犯罪へと向かわないためには何が必要なのだろう。僕は、先生が支えてくれたから立ち直ることができた。誰もが失敗や不安になる経験をし、自暴自棄になってしまふことはあるだろう。でも、そこでそのまま犯罪に手を染めてしまふか、立ち直って次に進むかの分かれ道となるのは、支えてくれる人がいるか、またその変化に気づいて手を差し伸べてくれる人がいるかだと思う。相手の変化に気づ

くにはどうしたらいいのか。僕は知っている。これこそおばあちゃんパワーだ。そつ「挨拶」をすること。

生徒会で人権についての取り組みを行うことになったとき、その一つとして「挨拶」が挙げられた。「どうして挨拶が大切なんだと思う？」と先生に聞かれ、僕はハツとした。僕は、それまで、挨拶はマナーとしてやるものという風にしか捉えていなかった。どうして挨拶をするのか、そんな事一度も考えたことがなかった。考えてみると、おばあちゃん達の挨拶から安心感が得られる理由がわかった。「おはようございます。」といわれたら「おはようございます。」と返す。短い言葉のコミュニケーションの中にも自分を見られている人が近くにいるということがわかるし、自分の存在を認めてくれていると実感できる。それが安心できる理由だ。また、挨拶は気持ちのバロメーターのようなもので、気持ちが挨拶の声色に現れてくる。だから、ちよつとした変化に気づくきっかけにもなり得るのだ。

僕は、自分が住んでいる地域が大好きだ。お互いのことをよく知っていて、何かあれば助け合う。誰もが安心して暮らすことのできる場所があるっていいなと思う。このような場所を社会全体にも広めていくために、僕はその人に手を差し伸べ、支えられるようにしていきたい。



千葉県更生保護女性連盟会長賞

みんな一人じゃない

南房総市立富浦中学校 一年

岩崎 小乃芽

「また今日も…」

テレビから、「詐欺」という言葉を聞かない日はない。オレオレ詐欺は、おそらく誰もが何度も耳にしているはずなのに、被害者は後を絶たないそう。しかも、新しいタイプの特しゅ詐欺が次々と現れ、手口も多種多様になっているという。

気になって調べてみると、海外で日本人をねらった詐欺被害が急増していたり、反対に日本暮らしの外国人をねらった特しゅ詐欺の被害も増加していたりするそうなのだ。

また、若者が詐欺に加担するケースも増えてきているともあった。詐欺の検挙率が上昇したことで、詐欺の末たんである、出し子や受け子のなり手が減り、そこで目をつけられたのが、何も知らない「若者」と呼ばれる世代であった。「簡単だよ」とか「これをやればいいだけだよ」「ちよっと手伝ってよ」などと、甘い言葉でゆう

わくされ、軽い気持ちで詐欺の世界に引きこまれてしまいうそうなのだ。なかには、私と同じ中学生が事件に関わっていることもあるようで、本当におどろいた。加害者でありながら、ある意味被害者とも言えるような状況となってしまうっている同年代の子がいることを知って、悲しくもなった。ニュースで見ているだけだった「詐欺」が、急に自分にも関わりがありそうなものになり、決して他人ごとではないと痛切に感じた。

本来、詐欺などの犯罪はいけないことだということとは理解しているはずだ。そして、そこに手は伸ばさないといい正しい選択ができれば、犯罪は起こらないはずだ。しかし、それができないから犯罪が起る。では、なぜ正しい選択をすることができないのだろうか。考えてみると、自分は一人だという孤独感や日々のストレスを抱えていると、心にちよっとしたすき間ができる。そのすき間は、「誰か」自分をわかつてくれる人との関わりや、

「誰か」に必要とされることが喜びへと変わってしまっているのではないだろうか。しかしその心につけこんで、甘い言葉をかけてくる。その流れを止めるには、心のすき間をなくすることが大切だと思う。普段の生活の中で自分の周りに目を向け、「一人にしない」「一人にさせない」こと、「二人じゃない」「支えてくれている人がいる」ことを実感して生活することが、まず大切なのではないだろうか。

私は帰宅をすると、毎日一人だ。両親は仕事でいそがしく、兄も部活動で帰りがおそい。でも隣の家の祖父母がいとも出迎えてくれる。誰かいるだけで、何かあったとしても大丈夫だと安心することができる。また両親も、仕事が終わると必ず電話をかけてくれて、今日の話を聞いてくれる。最後に「もうちょっと待っていてね」という言葉で電話を切る。私のことを気にかけてくれていると感じるだけで、「二人じゃない」と温かい気持ちになる。

前に通っていた通学路には、地域の見守り隊の人たちが立っていた。毎朝、

「おはよう。気をつけてな。」

と言って手を振ってくれた。たった数秒のことだが、すごくうれしい気持ちになった。いつも一緒に登校している友達に、体調が悪くて休みの日も、その言葉を聞けただけで、独りぼっちな気がしなくなった。いつも声をかけてくれる人がいること、自分のことを温かく見ていて

くれる人がいること、それだけで「一人じゃない」とやさしい気持ちになった。

周りに支えてくれている人がいると、温かくやさしい気持ちになれる。一人一人が周囲に目を向け、自分の周りには誰かがいることに気づき、温かい心、やさしい心で人に接することが、大切なのではないかと思った。それと同時に、一人である人に、自分から関わることも大切だと思った。そのような心を持った人があふれた社会ならば、たとえ甘いゆうわくがあったとしても「これは間違っていないか?」「本当によいのか?」と一度立ち止まって考えられる気がする。そして、甘いゆうわく自体なくなるような気がする。

私の周りには、家族はもちろん、学校の友達や先生、先輩、習いごとの仲間、地域の人などたくさんの人たちがいて、そのたくさんの人たちとつながっている。だから今、安心して生活できているのだと思う。

家族のつながり・友達のつながり・地域のつながり。このつながりを結んでいくだけではなく、強いつながりになるような社会ができれば、きっとみんなが幸せに過ごせるようになると思う。そのために私は、自分の気持ちを相手に伝えることから始めようと思う。日々の出来事で「何を感じたのか」「どう思ったのか」を近くにいる人に話すだけで心は満たされるはずだ。みんな一人じゃないから。

中学生の部



言葉を大切に

千葉県BBS連盟会長賞

柏市立柏第三中学校 三年

松島蘭奈

何かをしてしまった相手に、あなたはどんな言葉をかけていますか。

「ひどい」

「そんな子じゃないと思ってた」

「もう関わりたくない」

テレビではよくそんな言葉を見たり聞いたりします。確かにそう思うのは当然のことであって、そう考えるのが悪いというわけではありません。しかし、言う側ではなく言われる側にもなってみてはどうでしょうか。本当はやるつもりがなかった犯罪を犯したとき、周りの人から「ありえない」「そんなことをするやつじゃないと思ってた」なんて言われたとき、言われた側はどんな気持ちなのか考えてみてください。誰からも「どうしてそんな事になったのか」という理由も聞かれず「信じてる」の一

つも言われず責められるばかりだったらその人もやりきれないでしょう。

最近では、友達の間で軽い感じで「キモい」「死んでほしい」と言っている人がいます。実際に私は、テレビでそのようなことを言われて自殺未遂、不登校にまで追い込まれてしまったというニュースを見たことがあります。そのニュースの場合、言っていた側の人は、軽いつもりで言っていて本当にそんなことになるとは思っていませんでした。このように、本人にその気はなくても、何度も何度も言われたら苦しくなっていくものです。例えるなら、「悲しみや傷つき」を「水」にしてみると、空のペットボトルに「水」を少しずつ入れていくと、ゆっくりとペットボトルの中の「水」がいつぱいになっていき、いつかは溢れてしまうということです。

外見だけじゃそんなに傷ついているようには見えませんが、その人の中にはどんな「悲しい言葉」が溜まっています。そうしていつか溢れ出し、取り返しのつかないことになってしまつのです。何気なく使っている言葉はよく考えて使わないといけません。

最初の話に戻ると、「犯罪を犯した人に掛ける言葉」それについてもよく考えなければなりません。一度犯罪を犯した人が、また犯罪を犯す場合、理由は様々ですが、中には周りからの非難により追い詰められてすることもあります。一回目に犯罪を犯した後には周りから責められてばかりだと、その人の心もいっぱいになっていきます。そうしてまた犯罪に走ってしまい、また非難さればかりでは、心のペットボトルがいくらあっても足りなくなってしまういます。逆に言えば、あなたの一言で犯罪を減らすことだってできるといふことです。

犯罪を犯した人に対して、「ありえない」などの感情を抱くことは当然のことですが、その言葉を声に出す前によく考えてください。言われる側になってみてください。また、何気なく話している相手に対しても、よく考えて、その人のことを見てみてください。もしかしたら、あな

たの一言で犯罪がまた増えるかもしれないし、逆に減らすことができるかもしれません。そして、困っている友達を救うことができるかもしれないし、余計に追い詰めてしまつかもしれません。あなたのその一言が、これから変えていくかもしれません。言葉についてはこれから先もよく考えて、使っていくことが大切なのです。言葉を大切にして少しでも犯罪を減らし、悩みを抱えている人や追い詰められている人など、困っている人を救っていきましょう。そうすれば社会も明るくなります。



中学生の部



千葉保護観察所長賞

地域で築く安心感

九十九里町立九十九里中学校 一年 飯田ののほ

小学生女児らが見知らぬ男から『首から水筒をかけたら危ないぞ』などと声をかけられる事案が発生したとして、福岡県の警察署が防犯メールで注意を呼びかけた。

先日、この声かけ事案がSNSで話題になっている事を知った。男性は、親切心で声をかけたのではないかと、不審者ではないかもしれないなどと、疑問に思う声が多数上がっていたのだ。

この女の子達の場合は、知らない人から急に声をかけられて、怖いと感じたり不安に感じてしまったのかもしれない。不審者のような見た目だったり、大きな声で怒鳴られたりした可能性もある。きっと警察に通報するほどの理由があったのだろう。

もし私がこの女の子と同じような状況になっても、驚いて声が出なくなってしまうと思うし、怖いと感じて急

ぎ足でその場を去ってしまうかもしれない。だけど、後になってなぜ声をかけられたのか改めて考えたり、家族に報告したりするだろう。いきなり、不審者と決めつける事だけはしたくない。そう思ったきっかけは、私の祖父の存在だ。

私の祖父はアルツハイマー型認知症という理解力や判断力が低くなってしまう病気だ。人の区別もできなくなってきたので、誰彼構わず声をかけてしまう事がある。実際にこんな体験があった。

学校の帰り道のこと、私の前を歩いていた子ども達に「帰りが早いね。」「君は体格がいいね。」などと声をかけている祖父がいた。それを見ていた周りの子ども達が気持ち悪がって、祖父の事を不審者扱いしている。恥ずかしくなった私は、知らないフリをして通り過ぎたが、心

の中は悲しさと悔しさでいっぱいだった。病気のせいで祖父がおかしな事をしてしまっていると、みんなに説明したかったけれどもできなかった。

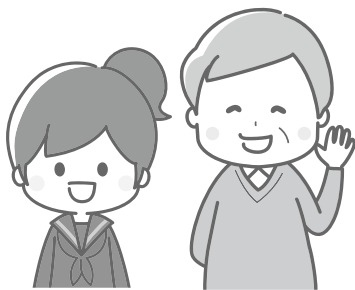
帰宅してこの事を母に伝えると、母はすぐに学校や警察に連絡して、謝りながら祖父の事情を説明していた。

この体験を通して気づいた事は、不審者情報や声かけ事案といっても、全てが犯罪につながるようなものではないのかもしれないという事だ。地域の不審者情報を調べてみると、道などを聞くつもりで声をかけたが、声をかけられた子どもが恐怖を感じて届け出されたもの、悪意のないものなど情報提供者の受け止めによるものも含まれる。”と記載されている。

知らない人だから不審者と決めつけるのではなく、相手がどういう人なのかを見極めていく事は必要だと思う。そのためには、普段から近所の人と挨拶やコミュニケーションを取る事が大切だと思った。近所にどんな人が住んでいるのかを知っているだけで、いざという時に助けを求める事もできるだろう。また、学校や家庭での防犯指導の際には、恐怖や不安をおおるのではなく、様々な事例を元に対応方法を伝えていく必要があると思った。

声かけ事案の場合でいうと、コミュニケーション目的の場合や、親切心での呼びかけ、病気で正常な判断ができない人などがいるという説明も必要だろう。

犯罪から身を守るためには、服装や出かける場所など、普段から注意を払って過ごす事が大切だ。それに加えて、地域の見守りがあれば、犯罪の防止にもつながり、安全で安心して暮らせる町になっていくだろう。私は地域の人と積極的に関わり、お互いに信頼し助け合える関係性を築けるようにしていきたいと思っている。





音楽の力

千葉県中学校長会長賞（奨励賞）

八街市立八街南中学校 二年

二^ふタ^た見^み
悠^ゆ斗^と

皆さんは犯罪者についてどう思っていますか。僕は犯罪者なんてこの世から居なくなってしまうといい、辛い人生を送ればいいと思っていました。そんな中、ある一本の動画を見ました。元犯罪者の更生支援活動を行っている人の動画です。その人の考えは、再犯者を増やさない、犯罪者をなくす、そしたら辛い思いをする被害者や被害者家族が生まれることがないという考えを持った人で僕もその考えに共感しました。

そこで、僕は犯罪者のことについて調べてみました。すると犯罪や非行を犯してしまう人々の共通点がわかりました。一つ目は、「孤独」という点でした。一人で全てを抱えてしまうせいでストレスがたまり、罪を犯してしまうということでした。二つ目は、「生活がゲーム感覚になる」という点でした。ゲームなどのやり過ぎで人を殺めるということの重みがわからなくなるといことで

した。そして三つ目は、「親友（友達）がいない」という点でした。これは一つ目の「孤独」と似ていて、身近に相談できる相手がおらず一人で悩み、憎しみや怒りを見い出してしまうということでした。この共通点を知って僕は犯罪者の中にも悲しく辛い思いをしてきた人がいるのだなと思い、胸が苦しくなりました。今まで僕は、犯罪者のことを無感情な人達だとか普通の人とは考え方が違うなど何気なく差別をしてしまっていました。罪を犯してしまった人も色々な悩みを抱えていることを知って、どうか社会全体で犯罪者をなくしていきたいという気持ちになりました。

また、今の犯罪者の中には再び罪を犯す人が多く、その割合はなんと約四十八パーセントと半分近くだそうです。でも僕は、なぜ罪を反省し刑務所から出て来たのにまた罪を犯してしまうのかが不思議でした。再犯してし

まう人の理由を調べたところ、再犯者の約七割の人は出所しても「仕事がない」という理由で、約二割の人は「住居がない」という理由でした。出所して働き先や住む場所もなく、お金もないため飯が食べられない、人はご飯を食べなければ死んでしまう。すると、再び罪を犯してまでご飯を食べようとする人が出てきてしまうそうです。僕はこれを見て、納得すると共にこの環境はとも良くないと思いました。確かにこの環境では再犯が増えてもおかしくないなと思いました。

今は動画で見た人の活動も含め、全国では一〇三ヶ所の更生保護施設があります。この数字だけを見ると一見多いように聞こえますが、再犯率が半数いるということはまだ不十分であることが考えられます。僕はこの状況は一刻も早く避けなければいけないと危機を感じました。そのためには、元犯罪者の人も心よく歓迎される職場がもっと増え、偏見のない世の中の環境づくりがまず第一歩だと思います。そして、出所して再スタートを切る人を心から応援する気持ちを持つ人が一人でも多くなることを心から願います。また、犯罪や再犯を犯さないようにするため、社会全体で犯罪や再犯をしてしまう人の心情を理解し、手を差し伸べて助け合える社会づくりが大

事であり、少年犯罪や非行をなくすため「地域ぐるみの子育て」が全国の各市町村にもっと浸透していくよう努力が必要だと感じました。

では、僕にできることは何かないかと考えたところ、僕は音楽が大好きで将来は音楽に携わる仕事をしたいと思っています。その中で僕は曲を作り、詞を書いて、自分の作った音楽を色々な人に聴いてもらいたいという夢をもっています。僕がその夢を目指している理由は、音楽に何度も助けられ、支えてもらってきたからです。ひどく落ち込んでいるときは優しいメロディーや背中を押してくれるような詞で勇気づけてもらい、頑張らなければいけないときはかっこ良く、弾むようなメロディーで気合いを入れてもらい、寂しいときはおだやかな詞になぐさめてもらってききました。音楽はすごい力を持っていると痛感しています。僕は音楽で世の中を明るく幸せにしたいと昔から思っていて、今回犯罪や再犯のことを調べてみて、より一層その気持ちが強くなりました。きつと音楽はどんな人の心にも寄り添ってあげられる力を持っていると思います。だからこそ、僕は自分の作った音楽で世の中の役に少しでも立てるよう努力していきます。

入 選

小学生の部

流山市立江戸川台小学校

五年

波多野 知歩

我孫子市立我孫子第三小学校

六年

馬場 瑠那

習志野市立藤崎小学校

五年

若嶋 航太郎

九十九里町立九十九里小学校

六年

市原 大瑤

栄町立安食台小学校

五年

間野 葵

印西市立原小学校

五年

力丸 弘大

印西市立印西中学校

一年

熊切奏音

佳 作

小学生の部

千葉市立大宮小学校

六年

村松 栞奈

千葉市立稲浜小学校

五年

鈴木 朱雀

君津市立周南小学校

六年

長谷川 苺

袖ヶ浦市立奈良輪小学校

六年

中村 莉瑠

勝浦市立勝浦小学校

六年

高梨 愛莉

いすみ市立長者小学校

六年

渡邊 乃愛

一宮町立一宮小学校

四年

津嶋 夏穂

長柄町立日吉小学校

六年

金子 嶋漣

山武市立鳴浜小学校

五年

加藤 遼将

匝瑺市立豊和小学校

六年

鎌形 茜里

佐倉市立内郷小学校

五年

中野 遥馬

白井市立白井第三小学校

六年

赤井 沙衣

中学生の部

市川市立第五中学校

二年

藤井 華

習志野市立第五中学校

一年

村上 遼馬

八千代市立高津中学校

三年

片桐 莉愛

長南町立長南中学校

二年

金澤 侑里

大網白里市立大網中学校

一年

金子 輝

富里市立富里中学校

三年

松本 陽向

中学生の部

千葉市立こてはし台中学校	二年	野津眞子
千葉市立都賀中学校	三年	大川一星
松戸市立和名ヶ谷中学校	三年	星宮麗子
鎌ヶ谷市立第三中学校	一年	岩佐美寿
富津市立富津中学校	二年	小泉杏樹
館山市立館山中学校	一年	新藤眞弓
鋸南町立鋸南中学校	一年	金子蘭
御宿町立御宿中学校	二年	須藤葵
長生村立長生中学校	三年	新保歩都
横芝光町立横芝中学校	三年	林咲良
芝山町立芝山中学校	二年	廣瀬遥菜
旭市立干潟中学校	二年	吉田美麗
多古町立多古中学校	三年	佐藤芽以
成田市立大栄みらい学園	八年(中学二年)	野田鳳生
四街道市立四街道西中学校	一年	仲村菜穂
野田市立東部中学校	二年	渡辺百花

審査委員

審査委員長

千葉県教育研究会国語教育部会長
千葉市立草野中学校長

柴崎 淳

審査委員

千葉県知事

熊谷 俊人

千葉県保護司会連合会長

清宮 一義

千葉県更生保護助成協会理事長

吉田 平

千葉県更生保護女性連盟会長

藤代 よし子

千葉県BBS連盟会長

清澤 拓治

千葉保護観察所長

田中 大輔

(敬称略)

やさしさは、 人を少し強くする

寄りそう人、支える人がいる。
だからきっとやり直せる。

検索して
みよう!



インターネットで
調べてみよう!



“社会を明るくする運動”
って?



ホロちゃん和サラちゃん
のお部屋

“社会を明るくする運動”作文コンテスト

小・中学生のみなさんが犯罪や非行などについて考え、
書いた作文を募集しています!

詳しくはこちら ➡ [社会を明るくする運動作文コンテスト](#)



社明 しやめい



社会を明るくする運動

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

第75回 “社会を明るくする運動” 千葉県作文コンテストのお知らせ

第75回“社会を明るくする運動”の行事として、千葉県作文コンテストの実施を予定しています。

次代を担う青少年に、日常生活、学校生活の中で、非行問題等に関して日ごろ考えていることや体験したことを通して、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深めてもらうことを目的としています。

多くの学校でこのコンテストの取り組みがなされますよう、御協力をお願いします。

1 募集規定

(1) 対象

千葉県内の小学校・中学校に在学する児童・生徒

(2) テーマ

“社会を明るくする運動”の趣旨を踏まえた内容であること。

日常の家庭生活、学校の中で体験した事をもとに、犯罪や非行に関して考えたことや感じたことを題材としたものとします。

(3) 応募作品

400字詰め原稿用紙3枚以上5枚程度、題名、学校名、学年、氏名を明記してください。また応募に当たっては、氏名、学校名、学年及び作品名及び作品内容が報道機関やインターネット等により公表される可能性があることについて、あらかじめ保護者の承諾が得られていることを前提とします。

自作・未発表のものに限ります。応募された作品の著作権は主催者に帰属するものとし、応募作品は返還しません。

2 応募先

“社会を明るくする運動”各市町村（地区）推進委員会

3 応募期間

毎年7月から9月上旬ころまでの各市町村（地区）推進委員会が定める日

4 表彰

入賞者には賞状と副賞を贈呈する予定です。

5 発表

千葉県推進委員会での審査結果は、毎年11月頃に各地区推進委員会を通じて発表します。

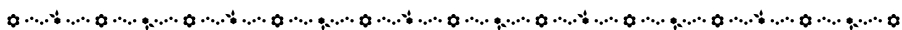
6 本コンテストに関するお問い合わせ先

〒260-8553 千葉県千葉市中央区春日2-14-10

千葉保護観察所内

“社会を明るくする運動”千葉県推進委員会事務局

TEL 043-204-7795



しょうがくせい ちゅうがくせい 小学生・中学生のみんな

しゃかい あか さくぶん か 社会を明るくするために作文を書こう！

いつもの生活の中から、犯罪や非行などについて
かんが かん さくぶん
考えたことや感じたことを作文にしてみましょう。
あか ひつよう
みんなで明るい社会にするためには、どんなことが必要でしょうか。

さくぶん か 作文を書くヒント

いつもの生活の中や自分がやったことから感じたことを見つけてみよう！

がっこう 学校

がっこう せいかつ
学校の生活で
どんなことを
かん
感じているかな？

かぞく かに 家族・家庭

かぞく
家族とのかかわり
なか
の中でどんなことを
かん
感じているかな？

おも 思いやり

やさしい気持ち
きもち
になるのは
どんなときかな？

しゃかい 社会のできごと

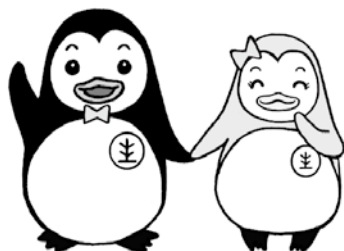
ニュースや
しんぶん し
新聞で知った
しゃかい
社会のできごと
かんが
から考えよう

ちいき 地域

じぶん せいかつ
自分の生活している
ちいき
地域ってどんなところ？
ひと
どんな人たちが
いるかな？

はんざい ひこう 犯罪・非行

はんざい ひこう
犯罪や非行はなぜ
おこ
起こるんだろう？
じけん お ひと たち なお
事件を起こした人が立ち直る
ために何が必要だろう？



じぶん なか
自分のできることの中に
しゃかい
社会を明るくするための何かがあるよ！
ゆうき だ
勇気を出してやってみよう！

作成：「社会を明るくする運動」千葉県推進委員会

《社会を明るくする運動》に取り組む 更生保護ボランティア

更生保護とは

更生保護は、犯罪をした人や非行のある少年を社会の中で適切に処遇することにより、その再犯を防ぎ、非行をなくし、これらの人たちが自立し改善更生することを助けることで、社会を保護し、個人と公共の福祉を増進しようとする活動です。

このような活動は、国の機関だけでは十分な効果を挙げることが難しく、保護司を始めとした、更生保護ボランティアの協力を得て行われています。社会の中での立ち直りを助けるためには、地域の皆様の理解と協力が不可欠であることから、更生保護ボランティアは、更生保護への理解と協力を訴えるため、全国各地で本運動に積極的に取り組んでいます。

保護司

保護司は、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支えるボランティアです。それぞれの地域社会にあつて、地域の事情等をよく理解しているという特性を生かし、保護観察官と協働して保護観察を受けている人と面接を行い、指導や助言をしたり、刑事施設や少年院に入っている人の生活環境の調整を行うほか、犯罪予防活動などにも取り組んでいます。全国に約四七、〇〇〇人います。

更生保護法人

更生保護法人は、法務大臣の認可を受けて更生保護事業を営む民間団体です。更生保護施設を運営して、犯罪や非行をした人のうち住む所がない人たちに宿泊場所や食事の提供、社会生活に適応するための指導等を行う法人や、犯罪や非行をした人の生活相談を実施する法人、更生保護の活動に対する助成事業を行う法人があります。更生保護施設は全国に一〇二施設あります。

更生保護女性会

更生保護女性会は、地域の犯罪予防活動や更生支援を行うボランティア団体です。家庭や非行問題を考えるミニ集会のほか、子育て支援の活動など、多様な活動を展開しています。全国では地区会数約一、三〇〇、会員数約一二〇、〇〇〇人を数えます。

BBS会

BBS (Big Brothers and Sisters Movementの略) は、様々な問題を抱える少年と、兄や姉のような身近な存在として少年たちと接し、相談相手となつて、少年の自立を支援する「ともしだち活動」などを行う青年ボランティア団体です。全国に約五〇〇のBBS会があり、会員数は約四、〇〇〇人です。

協力雇用主

犯罪や非行をした人の立ち直りには就労先の確保が大変重要です。協力雇用主は犯罪・非行の前歴等のために定職に就くことが容易でない人を、その事情を理解した上で雇用し、改善更生に協力する民間の事業主です。全国に約二五、〇〇〇の協力雇用主がいます。

Instagram

千葉県内で行われた「社会を明るくする運動」については、Instagramでも紹介されています。QRコードからアクセスできますので、ぜひ御覧ください。



ピーなっつホゴちゃん・
サラちゃんが目印です！



Instagram
アカウントQRコード

事務局編集後記

本年もたくさんの作品応募をいただき、とても嬉しく思います。

作文では、ネットやメディアで話題になった出来事や、地域・学校・家庭といった身近で体験したことなどを振り返り、社会を明るくするためにできることは何か、それぞれの考えが書かれており、いずれも素晴らしい作品だったと感じています。

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止・犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

小学生・中学生の皆さんが作文を通じて感じたこと、考えたことを、ぜひ、日常生活の中で行動に移してくれることを期待しています。



犯罪や非行をした人の立ち直りを 社会の中で見守り、地域のチカラで支えていく。 それが「更生保護」です。

社会の中で必要な支援を受けられず、再び犯罪や非行を重ねてしまう人たちがいます。
犯罪や非行からの立ち直りには、彼らを見守り支える地域社会のあたたかい心が必要です。
皆さんの地域でも、様々な立場から立ち直り支援に協力する「更生保護ボランティア」が活動しています。



“社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が犯罪や非行の防止と、罪を犯した人の改善更生について理解を深め、犯罪や非行のない地域社会を築くための全国的な運動です。

「あなたも地域の行事に参加してみませんか？」

毎年7月は、“社会を明るくする運動”の強調月間及び再犯防止啓発月間です。

更生保護について、もっと
知りたい方は…

更生保護

検索

お問い合わせは
お近くの保護観察所まで

保護観察所

検索



法務省保護局 @MOJ_HOGO
https://twitter.com/moj_hogo

保護局公式ツイッター

検索

リサイクル適性(A)
このマークは、自治体の
リサイクルマークです。

第74回 “社会を明るくする運動”
千葉県作文コンテスト入賞作文集
“社会を明るくする運動” 千葉県推進委員会事務局
千葉市中央区春日2-14-10
千葉保護観察所内
令和6年12月発行

人はみな、
生かされて
生きてゆく。

更生保護ネットワーク



犯罪や非行のない 明るい社会を築こう！

“社会を明るくする運動”とは、全ての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの改善更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築こうとする全国的な運動です。

社会を明るくする運動では、
“幸福(しあわせ)の黄色い羽根”
をシンボルマークにしています



更生ペンギンの ホゴちゃん